

教材・教具解説

教材教具名	マトリックスカード	教科( 国語 )	情報提供者
教材教具写真			
教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等			
<p>1 ねらい</p> <p>2つの属性の言葉について、聞き取り、理解し、判断することができるようになる。 (聞き取る力、記憶を保持する力、複数の要素から必要な情報のみを取り出す力等を高める)</p> <p>2 発達段階など</p> <p>太田ステージによる、Stage -1の段階(シンボル機能がはっきりと認められる段階)</p> <p>3 使い方</p> <p>それぞれのマスに正しいカードを貼らせる(自由な順に貼らせる)</p> <p>それぞれのマスに正しいカードを貼らせる(指さしたマスに正しいものを貼らせる)</p> <p>全部貼り終えた後で、「緑の服をください」「赤いものを全部ください」等の指示をする。</p> <p>全部貼り終えた後で一枚を取り、「これは何?」「これは何色?」等とたずねる。</p> <p>空白を示し、「ここに貼るのはどれ?」とたずねる。</p>			
児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)			
<p>台紙をパウチし、マジックテープを使うことで、生徒にとって扱いやすく繰り返し使える教材であった。</p> <p>写真右上のように種別表示のカードを別にし、アタッチメントのように使うことで「色と形」「長さ」と物」「大小と物」「量と物」などいろいろなバリエーションを作ることができ、そうすることで応用力を高めることができると思われる。</p> <p>文字理解は十分でないが発語や認識力のある生徒には、写真左上のように文字を用いない種別表示を使用すると無理なく学習することができた。</p> <p>「これは何?」に「赤い洗濯機」「大きな丸」等、正しく答えることができるようになると、複数のようそのうち必要な要素のみを抽出して答えること(「これは何色?」「これはどんな形?」に対して「赤い洗濯機」等と答えてしまう)が難しくなったが、繰り返しこの学習をすることでこういった間違いは消失すると思われる。</p>			